

## アフターコロナへ向けて。 観光資源を活用した取り組みで地域活性化を目指す

コロナ禍において大打撃を受けた観光産業。緊急事態宣言も明け、県内各所では、低迷する観光復興や地域活性化を目指した取り組みが進められている。

リゾート地として有名な勝浦市でも、海中展望塔がある「かつうら海中公園（1980年開設）」に、オーシャンビューの温水プールや足湯、カフェを備えた新たな観光拠点施設を来年3月の完成を目指し建設を進めている。同施設は、福井県若狭町にある日本海や三方五湖を望むことができ「天空のテラス」として多くの観光客の呼び込みに成功する観光施設を参考にしている。

勝浦市の観光客数の推移を見ると、2000年までは年間150万人を超えていた。しかし、年々減少し2019年には100万人を割り込み、2020年は新型コロナの影響もあり30万人まで激減している実態が報告されている。そして、上述の「かつうら海中公園」も、開園時は年間60万人以上の観光客が訪れていたが、ここ数年は10万人程度に落ち込んでいる。

このような状況を是正するために、県内の自治体では地域における新たな観光資源の洗い出し、更には、他エリアにおける先進事例の把握などを行い地域の魅力創出につなげる企画立案、施設整備を推進している。その一例として、香取市では人気ゲーム「ポケットモンスター」のキャラクターをデザインしたマンホール「ポケふた」の設置、また、市原市ではローカル鉄道として有名である小湊鉄道の沿線で地域の方々が栗の木を植樹し育てた栗を県内企業と協力し資源として広めていく取り組みなど、行政・企業・地域住民が連携した新たな観光資源を創出している。

新型コロナウイルスの影響により全国の観光地が多大なる経済的影響を受けた。このような時にこそ、賑わい創出に向け、地域資源の見直し・既存インフラの再構築が求められる。その際、重要であることは、行政主導で推進するのではなく、企業や地域住民の参画を促し、時代に求められる企画の練り上げであるといえよう。

千葉日報社 東京支社営業部 渡辺将一



市原市で有名な小湊鉄道の沿線で地域の方々が栗の木を植樹している様子